

目的の評価

全学学類・専門学群代表者会議
学内行事委員会

1 第43回筑波大学学園祭「雙峰祭」目的

「筑波大学は日本各地、ひいては全世界から人が集まる大学であるとともに、多様な学問分野を有する日本有数の国立総合大学である。筑波大学学園祭は、これらの特色を生かした筑波大学らしい多彩な企画や様々な分野の発表を通じ、つくば市を中心に本学の魅力を広く発信することを目的とする。」

この目的を、学園祭運営要領「I. 概要 B. 目的」において定めた方法にて評価し、最後に第43回筑波大学学園祭の総合的な評価を行う。

※アンケート集計結果等については「目的の評価補足資料」を参照

2 項目ごとの評価

2.1 「これらの特色を生かした筑波大学らしい多彩な企画や様々な分野の発表を通じ」

補足資料に記載されている実施企画一覧からわかる通り、今年度も多種多様な企画や発表が実施された。一般企画の学術参加枠や「つくばイチ受けたい授業」、「つくば研究紹介」では研究発表や模擬授業などの学術的な企画が開催され、ステージ企画では音楽やダンスの発表が行われた。また、留学生による海外をテーマとした出店や展示も多数見受けられた。これらの多彩な企画や発表は、国際性と学際性を兼ね備えているという筑波大学らしさが存分に発揮された結果であると言える。アンケートを参照したところ、留学生らによる出店や、総合大学ならではの様々な分野にわたる企画展示が好評であったようである。企画に多様性が感じられたかという質問に対しても肯定的な回答が87%を占めており、この目的は概ね達成されたとと言えるだろう。しかし、飲食系の出店に多様性が欠けているという指摘や、学術的な企画が理系に偏重しているとの声も寄せられている。これらの改善が今後の課題である。

2.2 「つくば市を中心に本学の魅力を広く発信することを目的とする」

アンケートでは全体の来場者の74%が茨城県内からであり、さらにそのうち72%がつくば市在住であった。この結果から、つくば市を発信の中心に据えることができたと判断できるだろう。本学の魅力に関しては、学術性、芸術性、国際性といっ

たさまざまな点で肯定的な評価がみられた。全体の満足度をみても 91%の来場者が満足またはやや満足と回答しており、本学の魅力は十分発信できたと言える。

改善点としては、web による事前の情報公開が不完全であるという意見や、パンフレットの地図がわかりにくいという声がアンケート中に散見されたことが挙げられる。事前にどんな企画があるのか周知したうえで当日迷うことなく雙峰祭を満喫してもらえれば、広大な会場という特徴を活かし限られた時間のなかで本学の魅力をさらに効果的に発信できるのではないかな。

3 まとめ

以上の結果を踏まえ、今年度の目的は概ね達成されたと判断する。アンケート結果全体を俯瞰しても肯定的な意見の割合は非常に高いものとなっており、学園祭として大きな成功を収めたと言えるだろう。しかし、不満を抱いた来場者が少数ながらいことも事実である。今年度以上の成功を目指すため、運営上発生した反省点やアンケート調査で判明した改善点を来年度の運営に活かしてもらいたい。